

ドイツ語ステップアップ

責任者名：川尻 竜彰

学期：後期

対象学年：1年

授業形式等：外国語

◆担当教員

川尻 竜彰(外国語(ドイツ語) 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

前期で習得した基本的なドイツ語文法の知識をさらに発展させ、特に平易な文章を読んだり書いたりすることが出来るようにする。

◆到達目標 (SBOs)

ドイツ語であいさつができる。

ドイツ語で自己紹介ができる。

ドイツ語で簡単な会話ができる。

ドイツの文化を理解し、多様な視点から物事を考えられる。

ドイツの文化を理解し、説明できる。

◆評価方法

各授業回に行う課題提出(100%)で評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
川尻 竜彰	火曜日 9:50~10:00 11:50~14:00 15:50~16:00		

◆授業の方法

基本的に2時間に1項目のペースで授業を進めていく。既習の英語と比較しつつわかりやすい解説を心がけるつもりである。最初に文法説明を行い、次週の1時間目に練習問題を解いていく。その際、ドイツ語を音読してもらうので発音も含めて下調べをしておくこと。小テストを2回行い、既習の文法事項の定着を図る。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	ドイツ語なんてこわくない	西村佑子 / Rudolf Petrik 共編	同学社	
参考書	アポロン独和辞典		同学社	

--	--	--	--	--

◆DP・CP

[DP2] コンピテンス：世界の現状を理解し，説明する力

コンピテンシー：国際社会の現状と背景を理解し，地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

[DP6] コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において，他社との円滑な意思の疎通を行い，互いに価値観を共有し，適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

[CP2] 国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し，基礎・臨床・社会医学の知識を基に，コク s 大社会で活躍できる基本的能力を育成する。

[CP6] 他者の意見を尊重し，明確な意思疎通のもと，円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

添付の CD をよく聞いて発音を確認しておくこと。

◆準備学習時間

授業時間半分相当を充てて予習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

ドイツ語の扉（第1学年前期）

◆予定表

予習・復習を欠かさないこと。辞書は常に携帯すること。

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1-2		9.8	5 ～ 6	前期文法事項の復習	・格変化，動詞の現在人称変化，語順を中心に復習する。	川尻 竜彰	
3-4		9.15	5 ～ 6	1. 非人称の es (教1)pp.45-46	・非人称表現とは何か理解する。	川尻 竜彰	
5-6		9.29	5 ～ 6	2. 話法の助動詞 (教1)pp.48-51	・助動詞構文（枠構造）について理解する。 ・話法の助動詞の現在人称変化および用法を学ぶ。	川尻 竜彰	
7-		10.6	5	3. 命令法	・命令形の作り方を学ぶ。	川尻 竜彰	

8			～ 6	(教1)pp.51-52			
9- 10		10.13	5 ～ 6	4. 形容詞 (教1)pp.54-57	・形容詞の様々な用法について学ぶ。	川尻 竜彰	
11 - 12		10.20	5 ～ 6	「第1回小テスト」 5. 複合動詞 (教1)pp.57-58	・分離動詞, 非分離動詞について学ぶ。	川尻 竜彰	
13 - 14		10.27	5 ～ 6	6. 再帰代名詞と再 帰動詞 (教1)pp.60-62	・「再帰」の意味を把握する。 ・再帰代名詞, 再帰動詞の用法を学ぶ。	川尻 竜彰	
15 - 16		11.10	5 ～ 6	7. zu 不定詞 (教1)pp.62-63	・zu 不定詞の作り方と用法について学ぶ。	川尻 竜彰	
17 - 18		11.17	5 ～ 6	8. 形容詞と副詞の 比較 (教1)pp.66-68	・比較級, 最上級の作り方とその用法について学ぶ。	川尻 竜彰	
19 - 20		11.24	5 ～ 6	9. 動詞の3基本 形 と過去人称変化 (教1)pp.70-72	・規則動詞と不規則動詞の3基本形の作り方を学ぶ。 ・過去人称変化とその用法を学ぶ。	川尻 竜彰	
21 - 22		12.1	5 ～ 6	10. 完了形 (教1)pp.74-78	・完了形も枠構造になることを理解する。 ・完了形の作り方とその用法を学ぶ。	川尻 竜彰	
23 -		12.8	5 ～	「第2回小テスト」	・関係文も従属文であることを理解する。	川尻 竜彰	

24			6	11. 関係代名詞 (教1)p.80			
25 - 26		12.10	5 ~ 6	12. 受動態 (教1)p.80	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠構造になることを理解する。 ・ 能動文と比較しつつ、その作り方を学ぶ。 	川尻 竜彰	
27 - 28		12.15	5 ~ 6	13. 接続法 (教1)p.81	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続法とは何か理解する。 ・ 接続法Ⅰ式、Ⅱ式の作り方とその用法について学ぶ。 	川尻 竜彰	
29 - 30		12.22	5 ~ 6	14. 総復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語と語順が異なる枠構造や従属文を中心に復習する。 ・ 定期試験範囲の解説。 	川尻 竜彰	